

# 高校生のライフスタイル、性意識および 性に関する対処行動の調査

久保田 美雪<sup>1)</sup>、渡邊 典子<sup>1)</sup>、小柳 恭子<sup>2)</sup>

1)新潟青陵大学看護学科 2)にいがた思春期研究会

The investigation of Life-style of high school students concerning sense of  
sex and their behaviors about coping with desire

KUBOTA Miyuki<sup>1)</sup>、WATANABE Noriko<sup>1)</sup>、OYANAGI Kyoko<sup>2)</sup>

1) NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF NURSING  
2) NIIGATA SOCIETY OF ADOLESCENCE RESEARCH

## Abstract

We investigate the Life-style (sides of companion, belongings, money, sense of sex and means of coping with desire) of high school students and examine the consequence related to existence of the experience of sexual intercourse.

The consequences of the investigation are as follows. The majority of the students with the experience have opposite sex companion. And, half of the students with the experience are keeping company with one companion. The percentage of the possession of handy phone or PHS of the students with the experience is higher than the students without one. The amount of pocket money of the students with the experience is larger. And the main use is eating and drinking, clothing expenses. Relating to the sense of sex, the majority of the students with the experience are affirmative when woman requests to use condom. Regarding to the means of coping with desire, most of the students with the experience talk about worries and troubles with friends. About the situation of the first sexual intercourse of 504experienced students, most of the male wanted for himself and on the other hand, most of the female did not want but in the course of nature. And condom is the best chosen as contraceptive device

## Key words

High school students、Life-style、sense of sex

## 要 旨

新潟県内の高校生にライフスタイルとして人的側面、物的側面、金銭的側面、性意識および性に対する対処行動の調査を実施し、性交経験の有無別に検討した。その結果 人的側面として、普段の遊び相手として「彼氏・彼女」と答えたのは、経験者のほうが高く、さらに経験者の半数は現在、交際相手が1人いた。物的側面として、「携帯電話・PHS」の所有は経験者のほうが高く、有意差が認められた。金銭的側面として、小遣いの金額は経験者のほうが高く、「飲食代」「洋服・靴代」が主な使いみちであった。女性がコンドームをつけてということに関する意識として「安心してできる」は経験者のほうが高く、有意差が認められた。性に関する悩みやトラブルへの対処行動として「友人に相談」は経験者のほうが高く、有意差が認められた。経験者504人の初交時の状況は、男子は「自ら望んだ」、女子は「望んだわけではないが自然の成り行きで」が最も高く、避妊方法で最も多いのはコンドームであった。

## キーワード

高校生、ライフスタイル、性意識

## はじめに

今日、情報の氾濫、ライフスタイルの多様化から「性」に対する価値観も多様化し、性意識や性行動が開放的になっている<sup>1)</sup>。若者の間では、性交がまるでファッションのように考えられ、カジュアル化している反面、性行動に伴うリスクはあまり認識されておらず、性感染症や望まない妊娠の予防については正確な知識をもたない若者が非常に多い<sup>2)</sup>のが現状である。これに伴い、若者の性感染症の増加、人工妊娠中絶が社会問題となっている。厚生労働省は、「すこやか親子21」<sup>3)</sup>で思春期の保健対策の強化と健康教育の推進を行い、10代の人工妊娠中絶および10代の性感染症罹患率の減少をめざすことを目標として掲げた。その目標達成には、若者へのライフスタイルに応じた健康教育としての性教育が求められる。

そこで、若者のライフスタイル、性意識および性に関する対処行動に関して高校生にアンケート調査を実施し、検討したので報告する。

## ・研究方法

### 1. 調査対象及び方法

調査対象は、新潟県内の高校生1796人である。調査期間は、2002年4月から2003年3月である。性教育の機会の対象となった高校生に自記式質問紙調査用紙と封筒を配布し、プライバシーの保護と回答内容の正確さを期するために、記入後各自封筒に入れて封をしてもらい回収した。そのうち有効回答数は1711人(95.3%)で男子446人(26.1%)、女子1265人(73.9%)であった。統計学的分析は統計パッケージSPSS Ver. 10.0を用い、回答の差の検定には<sup>2)</sup>検定を用いた。

### 2. 調査内容

調査内容は、対象の属性、ライフスタイル、性意識および性に関する対処行動である。ライフスタイルは 人的側面として両親、普段の遊び相手、交際相手、 物的側面として通信機器、 金銭的側面として小遣いの3側面である。

## ・結果

### 1. 対象の属性(表1)

男子は、446人(26.1%)、女子は1265人(73.9%)であった。男子性交経験者(以下、経験者と略)は121人(27.1%)、女子経験者は383人(30.3%)であった。

### 2. 人的側面

#### 1) 両親との同居の有無について(図1)

「両親と同居している」と答えた人は、男子の場合、経験者108人(89.3%)、性交未経験者(以下、未経験者と略)287人(90.5%)、女子の場合、経験者335人(87.5%)、未経験者774人(91.3%)であり、男女ともに性交経験の有無に関わらず約90%が両親と同居していた。

#### 2) 普段の遊び相手について(表2)

男子の場合、経験者は「学校の同性の友達」100人(82.6%)、「学校外の同性の友達」80人(66.1%)、「彼氏・彼女」59人(48.8%)の順に高く、未経験者は「学校の同性の友達」267人(84.2%)、「学校外の同性の友達」193人(60.9%)、「兄弟などの親族」25人(7.9%)の順であった。「彼氏・彼女」「学校外の異性の友達」としたものは、未経験者に比べ経験者のほうが高く有意差が認められた( $p < 0.01$ )。

次に女子の場合、経験者は「学校の同性の友達」330人(86.2%)、「学校外の同性の友達」239人(62.4%)、「彼氏・彼女」194人(50.7%)の順に高く、未経験者は「学校の同性の友達」775人(91.4%)、「学校外の同性の友達」517人(61.0%)、「兄弟などの親族」144人(17.0%)の順であった。また、「学校外の異性の友達」「彼氏・彼女」「遊んでいる時に知り合った異性の友達」「学校の異性の友達」「遊んでいるときに知り合った同性の友達」は未経験者に比べ経験者のほうが高く、「学校の同性の友達」「兄弟などの親族」は経験者に比べ未経験者のほうが高く、有意差が認められた( $p < 0.01$ )。

さらに、「携帯電話で知り合った友達」は男子未経験者5人(1.6%)、女子経験者9人(2.3%)、女子未経験者18人(2.1%)であった。

表1 対象の異性 n = 1711人 (%)

		男子 (n = 446)	女子 (n = 1265)
年齢 平均年齢 16.51歳 (SD : 0.83)	15歳	52 (11.7)	130 (10.3)
	16歳	171 (38.3)	502 (39.7)
	17歳	177 (39.7)	491 (38.8)
	18歳	45 (10.1)	140 (11.1)
	19歳	1 (0.2)	2 (0.2)
性交経験	性交経験者	121 (27.1)	383 (30.3)
	未性交経験者	317 (71.1)	848 (67.0)
	無回答	8 (1.8)	34 (2.7)

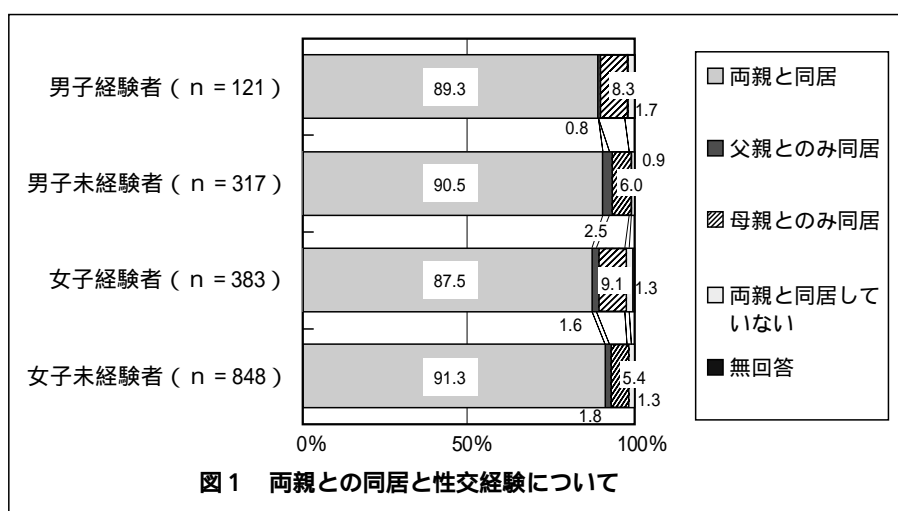


表2 普段の遊び相手と性交経験について (複数回答) <sup>2</sup>検定 人 (%)

	男子		<sup>2</sup> 値	女子		<sup>2</sup> 値
	経験者 (n = 121)	未経験者 (n = 317)		経験者 (n = 383)	未経験者 (n = 848)	
学校の同性の友達	100 (82.6)	267 (84.2)		330 (86.2)	775 (91.4)	$\chi^2(1) = 9.58^{**}$
学校の異性の友達	7 (5.8)	11 (3.5)		17 (4.4)	12 (1.4)	$\chi^2(1) = 10.40^{**}$
学校外の同性の友達	80 (66.1)	193 (60.9)		239 (62.4)	517 (61.0)	
学校外の異性の友達	15 (12.4)	11 (3.5)	$\chi^2(1) = 12.23^{**}$	88 (23.0)	58 (6.8)	$\chi^2(1) = 65.23^{**}$
塾・予備校の友達	1 (0.8)	6 (1.9)		5 (1.3)	13 (1.5)	
携帯で知り合った友達	0 (0)	5 (1.6)		9 (2.3)	18 (2.1)	
サークルの友達	3 (2.5)	7 (2.2)		9 (2.3)	14 (1.7)	
彼氏・彼女	59 (48.8)	10 (3.2)	$\chi^2(1) = 135.50^{**}$	194 (50.7)	38 (4.5)	$\chi^2(1) = 366.27^{**}$
兄弟などの親族	10 (8.3)	25 (7.9)		41 (10.7)	144 (17.0)	$\chi^2(1) = 8.31^{**}$
遊んでいる時に知り合った同性の友達	8 (6.6)	19 (6.0)		13 (3.4)	7 (0.8)	$\chi^2(1) = 10.81^{**}$
遊んでいる時に知り合った異性の友達	3 (2.5)	5 (1.6)		28 (7.3)	8 (0.9)	$\chi^2(1) = 37.47^{**}$
その他	2 (1.7)	2 (0.6)		9 (2.3)	21 (2.5)	

\*\* p < 0.01

## 3) 現在の交際相手について

「交際相手が1人いる」と答えた人は、男子の場合、経験者61人(50.4%)、未経験者23人(7.3%)、女子の場合、経験者212人(55.4%)、未経験者68人(8.0%)であり、男女ともに経験者の半数は交際相手が1人いた。「交際相手が複数いる」は、男子経験者3人(2.5%)、男子未経験者2人(0.6%)、女子経験者7人(1.8%)であった。

## 3. 物的側面(表3)

通信機器の所有について、男子の場合「携帯電話・PHS」は経験者118人(97.5%)、

未経験者252人(79.5%)と未経験者に比べ経験者のほうが高く、有意差が認められた( $p < 0.01$ )。「パソコン」は経験者39人(32.2%)、未経験者117人(36.9%)、「どちらも持っていない」は経験者2人(1.7%)、未経験者36人(11.4%)と未経験者のほうが高かった。

次に女子の場合、「携帯電話・PHS」は経験者371人(96.9%)、未経験者743人(87.6%)と未経験者に比べ経験者のほうが高く、有意差が認められた( $p < 0.01$ )。「パソコン」は経験者92人(24.0%)、未経験者302人(35.6%)、「どちらも持っていない」は経

表3 通信機器の所有と性交経験について(複数回答)

	男子		<sup>2</sup> 値	女子		<sup>2</sup> 値
	経験者 (n=121)	未経験者 (n=317)		経験者 (n=383)	未経験者 (n=848)	
携帯電話・PHS	118 (97.5)	252 (79.5)	<sup>2</sup> (1) = 20.89**	371 (96.9)	743 (87.6)	<sup>2</sup> (1) = 26.16**
ポケベル	0 (0)	0 (0)		2 (0.5)	0 (0)	
パソコン	39 (32.2)	117 (36.9)	<sup>2</sup> (1) = 16.50**	92 (24.0)	302 (35.6)	
PDA	0 (0)	2 (0.6)		2 (0.5)	2 (0.2)	
どれも持っていない	2 (1.7)	36 (11.4)	<sup>2</sup> (1) = 9.74**	8 (2.1)	53 (6.3)	
その他	0 (0)	1 (0.3)		1 (0.3)	3 (0.4)	

\*\* p &lt; 0.01

表4 親からもらう小遣いの金額と性交経験について

	男子		女子	
	経験者 (n=90)	未経験者 (n=265)	経験者 (n=271)	未経験者 (n=668)
平均値	7261	5205	7004	5468
中央値	5000	5000	5000	5000
標準偏差	9478	2331	4091	2860
最小値	2000	1000	300	1000
最大値	90000	20000	30000	25000

表5 アルバイトで得る小遣いの金額と性交経験について

	男子		女子	
	経験者 (n=28)	未経験者 (n=30)	経験者 (n=131)	未経験者 (n=98)
平均値	36571	29967	36316	30376
中央値	40000	30000	30000	30000
標準偏差	16020	17312	14718	15721
最小値	5000	1000	9000	2000
最大値	70000	65000	80000	90000

表6 小遣いの使いみちと性交経験について(複数回答)

<sup>2</sup>検定 人(%)

	男子		<sup>2</sup> 値	女子		<sup>2</sup> 値
	経験者 (n=121)	未経験者 (n=317)		経験者 (n=383)	未経験者 (n=848)	
飲食代	89 (73.6)	146 (46.1)	<sup>2</sup> (1) = 28.75 **	276 (72.1)	447 (52.7)	<sup>2</sup> (1) = 37.49 **
洋服・靴代	79 (65.3)	118 (37.2)	<sup>2</sup> (1) = 29.71 **	284 (74.2)	430 (50.7)	<sup>2</sup> (1) = 55.77 **
CD・ビデオ・DVD	50 (41.3)	144 (45.4)		84 (21.9)	289 (34.1)	<sup>2</sup> (1) = 19.99 **
雑誌代	47 (38.8)	155 (48.9)		143 (37.3)	447 (52.7)	<sup>2</sup> (1) = 27.85 **
携帯電話代	34 (28.1)	50 (15.8)	<sup>2</sup> (1) = 9.11 **	126 (32.9)	123 (14.5)	<sup>2</sup> (1) = 53.26 **
雑貨代	26 (21.5)	60 (18.9)		85 (22.2)	290 (34.2)	<sup>2</sup> (1) = 19.49 **
カラオケ代	22 (18.2)	28 (8.8)		138 (36.0)	184 (21.7)	<sup>2</sup> (1) = 26.42 **
レンタルビデオ代	20 (16.5)	50 (15.8)		32 (8.4)	68 (8.0)	
映画などのチケット代	12 (9.9)	18 (5.7)		24 (6.3)	58 (6.8)	
ゲーム代	12 (9.9)	42 (13.2)		32 (8.4)	61 (7.2)	
ゲームソフト代	11 (9.1)	98 (30.9)		1 (0.3)	53 (6.3)	
美容院代	6 (5.0)	4 (1.3)		39 (10.2)	34 (4.0)	<sup>2</sup> (1) = 17.38 **
化粧品代	4 (3.3)	3 (0.9)		180 (47.0)	212 (25.0)	<sup>2</sup> (1) = 56.18 **
参考書代	0 (0)	8 (2.5)		5 (1.3)	24 (2.8)	
エステの費用	0 (0)	0 (0)		2 (0.5)	0 (0)	
その他	12 (9.9)	28 (8.8)		37 (9.7)	63 (7.4)	

\*\* p < 0.01

験者8人(2.1%)、未経験者53人(6.3%)と経験者に比べ未経験者のほうが高く、有意差が認められた(p < 0.01)。

4. 金銭的側面(表4、5)

1) 小遣いの金額について

親からもらっている1ヶ月の小遣いの平均値は、男子の場合、経験者7,261円、未経験者5,205円、女子の場合、経験者7,004円、未経験者5,468円であり、男女ともに経験者のほうが高かった。

アルバイトで得る1ヶ月の小遣いの平均値は、男子の場合、経験者36,571円、未経験者29,967円、女子の場合、経験者36,316円、未経験者30,376円であり、男女ともに経験者のほうが約6,000円高かった。

2) 小遣いの使いみちについて(表6)

男子の場合、経験者は「飲食代」89人(73.6%)、「洋服・靴代」79人(65.3%)、「CD・ビデオ・DVD」50人(42.3%)の順に高く、未経験者は「雑誌代」155人(48.9%)、「飲食代」146人(46.1%)、「CD・ビデオ・DVD」144人(45.4%)の順であった。「飲食代」「洋服・靴代」「携帯電話代」としたものは、未経験者に比べ経験者のほうが高く有意差が認められた(p < 0.01)。

次に女子の場合、経験者は「洋服・靴代」284人(74.2%)、「飲食代」276人(72.1%)、「化粧品代」180人(47.0%)の順に高く、未経験者は「飲食代」447人(52.7%)、「雑誌代」447人(52.7%)、「洋服・靴代」430人(50.7%)の順であった。「洋服・靴代」「飲食代」「化

表7 女性が「コンドームをつけて」ということをどう思うかと性交経験について(複数回答)

		男子		<sup>2</sup> 値	女子		<sup>2</sup> 値	
		経験者 (n = 121)	未経験者 (n = 317)		経験者 (n = 383)	未経験者 (n = 848)		
肯定	↑ 当たり前	85 (70.2)	174 (54.9)		244 (63.7)	503 (59.3)		
	↑ 安心してできる	52 (43.0)	79 (24.9)	<sup>2</sup> (1) = 6.78 **	192 (50.1)	280 (33.0)	<sup>2</sup> (1) = 16.25 **	
	↑ 自分を大切にしている	43 (35.5)	76 (24.0)		163 (42.6)	280 (33.0)		
	↓ 清潔な感じ	14 (11.6)	32 (10.1)		33 (8.6)	95 (11.2)	<sup>2</sup> (1) = 4.44 *	
	↓ 女性の権利	12 (9.9)	31 (9.8)		67 (17.5)	174 (20.5)	<sup>2</sup> (1) = 5.43 *	
	否定	↑ しらける	6 (5.0)	5 (1.6)		23 (6.0)	24 (2.8)	<sup>2</sup> (1) = 4.83 *
		↑ 雰囲気が壊れる	5 (4.1)	3 (0.9)		24 (6.5)	24 (2.8)	<sup>2</sup> (1) = 6.56 *
		↓ 相手を信頼していない	2 (1.7)	8 (2.5)		17 (4.4)	29 (3.4)	
		↓ うるさい感じ	2 (1.7)	4 (1.3)		9 (2.3)	10 (1.2)	
		↓ 遊ばれている	0 (0)	11 (3.5)		3 (0.8)	13 (1.5)	
	その他	5 (4.1)	10 (3.2)		6 (1.6)	18 (2.1)		

\*\* p &lt; 0.01 \* p &lt; 0.05

化粧品代」「カラオケ代」「携帯電話代」「美容院代」は未経験者に比べ経験者のほうが高く、「雑誌代」「雑貨代」「CD・ビデオ・DVD」は経験者に比べ未経験者のほうが高く、有意差が認められた(p < 0.01)。

#### 5. 性意識

1) 女性が「コンドームをつけて」ということをどう思うか、について(表7)

男子の場合、「当たり前」は経験者85人(70.2%)、未経験者174人(54.9%)「安心してできる」は経験者52人(43.0%)、未経験者79人(24.9%)、「自分を大切にしている」は、経験者43人(35.5%)、未経験者76人(24.0%)と肯定的意見は経験者のほうが高かった。

次に女子の場合、「当たり前」は経験者244人(63.7%)、未経験者503人(59.3%)「安心してできる」は経験者192人(50.1%)、未

験者280人(33.0%)、「自分を大切にしている」は経験者163人(42.6%)、未経験者280人(33.0%)と肯定的意見は経験者のほうが高かった。肯定的意見の中でも「安心してできる」は未経験者に比べ経験者ほうが高く、「女性の権利」「清潔な感じ」は経験者に比べ未経験者のほうが高く、有意差が認められた(p < 0.05)。否定的意見では、「しらける」は経験者23人(6.0%)、未経験者24人(2.8%)、「雰囲気が壊れる」は経験者25人(6.0%)、未経験者24人(2.8%)と未経験者に比べ経験者のほうが高く、有意差が認められた(p < 0.05)。

#### 6. 性に関する対処行動

1) 性に関する悩みやトラブルへの対処方法について(表8)

男子の場合、経験者は「友人に相談」77人

(63.6%)、「雑誌で調べる」19人(15.7%)、「電話相談」18人(14.9%)の順に高く、未経験者は「友人に相談」149人(47.0%)、「雑誌で調べる」67人(21.1%)、「電話相談」「医学書・専門書で調べる」「インターネット」40人(12.6%)の順であった。「友人に相談」は未経験者に比べ経験者のほうが高く、有意差が認められた( $p < 0.01$ )。

次に女子の場合、経験者は「友人に相談」317人(82.8%)、「雑誌で調べる」96人(25.1%)、「養護教諭に相談」68人(17.8%)の順に高く、未経験者は「友人に相談」478人(56.4%)、「母親に相談」204人(24.1%)、「雑誌で調べる」199人(23.5%)の順であった。「友人に相談」は未経験者に比べ経験者のほうが高く、「母親に相談」「電話相談」「インターネット」は経験者に比べ未経験者のほうが高く、有意差が認められた( $p < 0.05$ )。

2) コンドームの入手方法について(図2)

今までコンドームを所有したことがある531人の入手方法について、男女ともに経験

者は「薬局」「コンビニ」「友人」、未経験者は「友人」が主であり、それ以外の項目は10%に満たなかった。「その他」として、男子経験者は「雑貨店」2人、男子未経験者は「授業(性教育)」2人、女子経験者は「相手(彼氏)が持ってきた」14人、「ラブホテル」7人、「親から」2人、女子未経験者は「家にあった」4人、「授業(性教育)」2人であった。

3) コンドームの所有について

「現在、コンドームを所有している」は、男子の場合、経験者75人(62.0%)、未経験者32人(10.1%)、女子の場合、経験者143人(37.3%)、未経験者52人(6.1%)であり、男女ともに経験者のほうが高かった。

「今まで、コンドームを所有したことがある」は、男子の場合、経験者116人(95.9%)、未経験者71人(22.4%)、女子の場合、経験者260人(67.9%)、未経験者84人(9.9%)であり、男女ともに経験者のほうが高かった。

表8 性に関する悩みやトラブルへの対処方法と性交経験について(複数回答) <sup>2</sup>検定 人(%)

	男子			女子			
	経験者 (n=121)	未経験者 (n=317)	<sup>2</sup> 値	経験者 (n=383)	未経験者 (n=848)	<sup>2</sup> 値	
身近な人へ相談	友人に相談	77 (63.6)	149 (47.0)	<sup>2</sup> (1) = 11.63 **	317 (82.8)	478 (56.4)	<sup>2</sup> (1) = 75.95 **
	父親に相談	6 (5.0)	16 (5.0)		3 (0.8)	10 (1.2)	
	母親に相談	7 (5.8)	23 (7.3)		47 (12.3)	204 (24.1)	<sup>2</sup> (1) = 25.50 **
	兄弟・姉妹に相談	5 (4.1)	8 (2.5)		45 (11.7)	69 (8.1)	
	学級担任に相談	1 (0.8)	5 (1.6)		6 (1.6)	7 (0.8)	
	養護教諭に相談	8 (6.6)	16 (5.0)		68 (17.8)	139 (16.4)	
専門職へ相談	電話相談	18 (14.9)	40 (12.6)		27 (7.0)	106 (12.5)	<sup>2</sup> (1) = 9.25 **
	保健所に相談	17 (14.0)	35 (11.0)		27 (7.0)	78 (9.2)	
	医療機関に受診する	12 (9.9)	36 (11.4)		30 (7.8)	85 (10.0)	
自分で解決	雑誌で調べる	19 (15.7)	67 (21.1)		96 (25.1)	199 (23.5)	
	医学書・専門書で調べる	8 (6.6)	40 (12.6)		37 (9.7)	106 (12.5)	
	インターネット	11 (9.1)	40 (12.6)		20 (5.2)	74 (8.7)	<sup>2</sup> (1) = 5.28 *
その他	7 (5.8)	11 (3.5)		18 (4.7)	15 (1.8)		

\*\*  $p < 0.01$  \*  $p < 0.05$

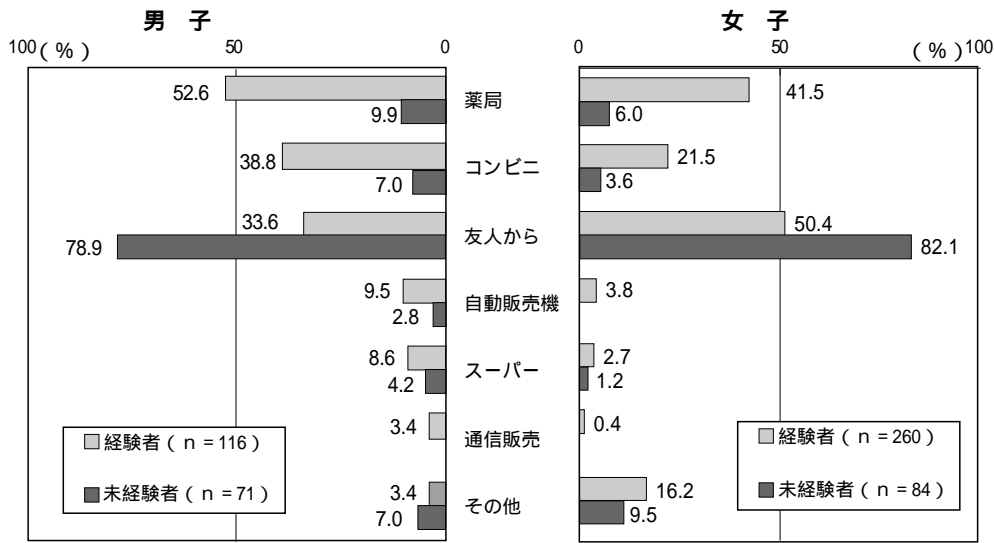


図2 コンドームの入手方法と性交経験について (複数回答)

4) 性交経験者の性行動について

(表9)(図3)

性交経験のある504人の初交時の状況について、男子は「自ら望んだ」63人(52.1%)、「望んだわけではないが、自然の成り行きで」51人(42.1%)、「望んでいなかったが、結局同意して」4人(3.3%)の順に高く、女子は「望んだわけではないが、自然の成り行きで」210人(54.8%)、「自ら望んだ」86人(22.5%)、「望んでいなかったが、結局同意して」52人(13.6%)の順であった。「その他」として、

男子は「無理やりやった」、女子は「どっちでもよかった」「なんとなく」「仕方なかった」などという記述がみられた。

性交をする理由について、男子は「相手のことが好きだから」96人(79.3%)、「気持ちがいい」59人(48.8%)、「コミュニケーション手段の1つだから」50人(41.3%)の順に高く、女子は「相手のことが好きだから」307人(80.2%)、「コミュニケーション手段の1つだから」163人(42.6%)、「その場の雰囲気」129人(33.7%)の順であった。「気持ちがいい」「楽しい」「すっきりする」「セックスがしたい」は女子に比べ男子のほうが高く、「その場の雰囲気」は男子に比べ女子のほうが高く、有意差が認められた(p < 0.01)。

性交時の主なる避妊方法について、男子は「コンドーム」104人(86.0%)、「膣外射精」41人(33.9%)、女子は「コンドーム」307人(80.2%)、「膣外射精」138人(36.0%)、「避妊をしない」41人(10.7%)であった。それ以外の項目「基礎体温法・荻野式」「経口避妊薬」「殺精子剤」「射精を伴わない性交渉」は、男女とも10%に満たなかった。「その他」として、男子は「口中射精」、女子は「生理中にする」「口出し」という記述がみられた。

	人(%)	
	男子 (n=121)	女子 (n=383)
自ら望んだ	63 (52.1)	86 (22.5)
望んだわけではないが、自然の成り行きで	51 (42.1)	210 (54.8)
望んでいなかったが、結局同意して	4 (3.3)	52 (13.6)
望んでいなかったが、言えなかった	0 (0)	8 (2.1)
意に反して強要された	1 (0.8)	10 (2.6)
その他	2 (1.7)	9 (2.3)
無回答	0 (0)	8 (2.1)



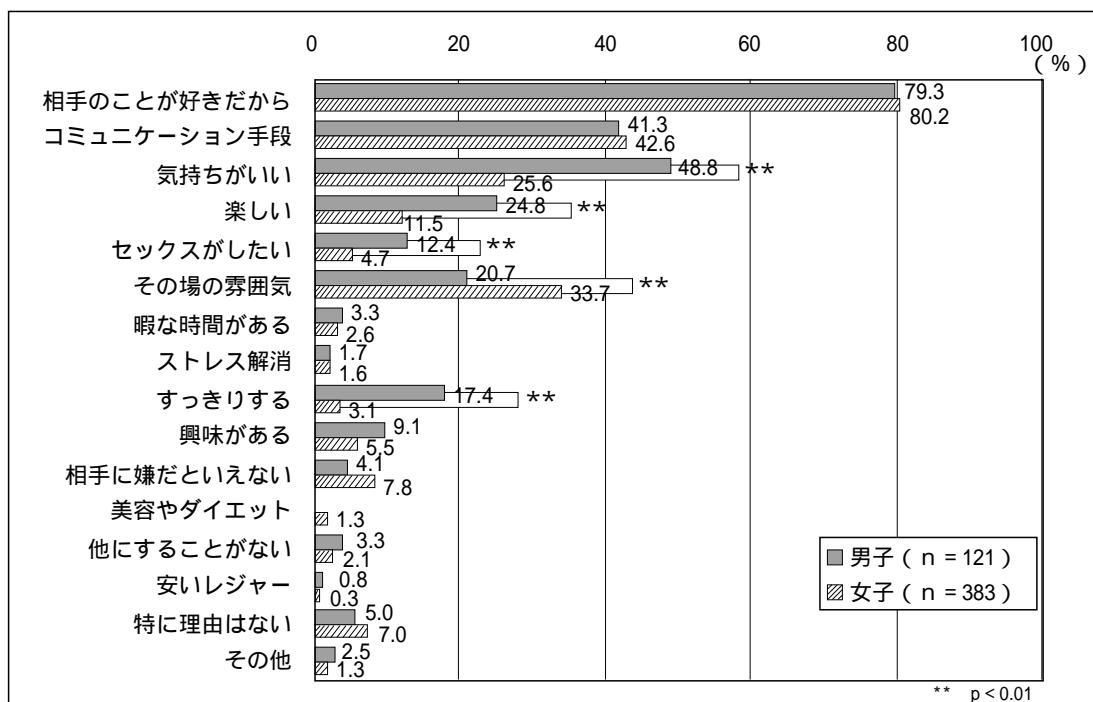


図3 性交する理由 (複数回答)

・考察

1. 人的側面

今回の調査では、性交経験の有無に関わらず約90%の高校生が両親と同居しており、両親の同居と性行動は関連がみられなかった。北村<sup>4)</sup>は、親子間の日常会話が保たれている人のほうが初交年齢が遅くなることを報告しており、親子間の「関係」が重要であると考えられる。さらに、良い親子関係とは、子どもの成長・発達とともに変化するものであり、親も成長・発達していくことが必要である。

普段の遊び相手について、男女ともに学校や学校外の同性の友達が主たる遊び相手であった。経験者は未経験者より異性の友達や彼氏・彼女を遊び相手としており、異性と接する機会や時間が多いことを示している。また、携帯電話で知り合った友達や遊んでいる時に知り合った友達という回答もあり、相手のことをよく知らずに、危機感や警戒心を持たないまま無防備に遊び相手を選択している状況もみられる。思春期は、人の発達段階において孤独感を感じやすい時期といわれており、この孤独感をまぎらわすための対処行動とも考えられる。若者に「危機感」「警戒心」を

持ってもらうことと同時に「孤独感」とどう向き合っていくとよいか、などを伝えていくことが必要である。

交際相手について、「交際相手が1人いる」は男女ともに経験者の50%を占めていた。平岡<sup>5)</sup>は、「高校生の考えはセックスについては条件を整えば、中高生であっても問題はないと考えている。」と報告しており、男女交際において性交は特別なものではなくなってきている。性交に伴い起こりうる妊娠や性感染症から身を守る実施可能な避妊方法や性感染症予防について、早い時期から指導していくことが必要である。

2. 物的側面

通信機器の所有について、1999年の調査<sup>6)</sup>では、携帯電話・PHSの所有は男子52.5%、女子62.1%、パソコンの所有は男子13.0%、女子8.1%であった。それに対し、今回の調査では携帯電話・PHSの所有は約80%、パソコンの所有は約30%前後と高く、急速に若者の間に普及している。また、携帯電話・PHSの所有は男女ともに経験者のほうが高く、携帯電話・PHSの所有と性交経験に<sup>7)8)</sup>関係がみられた。これは、他の調査<sup>7)8)</sup>結果と一致している。携帯電話・PHSは、気軽な交際ツ

ールとしてたくさんの異性と出会えること、異性との関係をより親密にすることを可能にした。さらに、大人の監視を離れ「テレクラ」「出会い系サイト」「援助交際」等という性産業へ簡単にアクセスでき、利用できるようにもした。また、インターネットは有害な性情報に容易に接続でき、これらが性行動を促進している<sup>9)</sup>と考える。下田は、「アメリカでは、『有害情報の多いインターネットは、大人の自己責任のメディア。子どもたちに使わせる時には監視と指導が必要』という常識ができてい<sup>9)</sup>。」と述べている。このことは、携帯電話・PHS、パソコンの所有時に関わっている親をはじめとした大人が、使用上のルールを作り、所有させる必要性を示している。加えて、若者自身が正しい情報を見極める力(メディアリテラシー)を持てるように、学校教育で取り入れていくことも重要である。

### 3. 金銭的側面

親からもらう小遣いの金額について、東京と秋田で行われた他の調査の平均値は、男子11560.2円、女子10600.6円、中央値は男女ともに6000円であり、本調査より高くなっている。本調査では、親からもらう小遣いの金額とアルバイトの金額は、男女ともに経験者のほうが高く、自分の自由になる金銭を多く持っていた。経験者のアルバイト金額が高いということは、アルバイト時間が長かったり、アルバイトの頻度が多いということが必然であり、男女交際ひいては性行動の誘因ともなっていると考える。他の調査<sup>11) 12)</sup>でもアルバイトが性行動を促進することが報告されている。

次に小遣いの使いみちをみると、経験者は「飲食代」「洋服・靴代」、未経験者は「CD・ビデオ・DVD」「雑誌代」が主な使いみちであった。経験者の「飲食代」「携帯電話代」「カラオケ代」は、他者との関係を構築・維持、あるいはより親密にし、「洋服・靴代」「美容院代」「化粧品代」は、自分自身の装飾を可能にしている。さらに女子において、力武は「性情報により少女たちは自分のセクシャリティが金銭で取り引きされる価値をもっていることを知る。セックスもナンパも同じゲームであることに変わりはなく、それに対してお金が支払われることに対する罪

悪感<sup>14)</sup>は、現代の若者には薄い」と指摘し、赤枝も「彼女たちは『今しか自分のからだを売れない』と考えています。つまり、若さがお金になるということと、自分に商品価値があるのはいまだけ<sup>14)</sup>と<sup>14)</sup>思っている。」と指摘している。このような意識は、自分の商品価値を高めるために、装飾代をエスカレートさせ、金銭感覚の麻痺へとつながる。改めて、性の価値観が問われていると言えるであろう。

### 4. 性意識

女性がコンドームをつけてということについては、男女ともに肯定的意見のほうが否定的意見より高く、中でも「安心してできる」は男女ともに経験者のほうが高かった。経験者は、妊娠や性感染症のリスクから自分を守ることができるという安心感を得るためにコンドームを使用したり、実際の使用により安心感を実感しているため高いと考える。また、女子において、経験者は「しらける」「雰囲気<sup>15)</sup>が壊れる」という否定的意見が高い。女子は、実際に「しらける」「雰囲気<sup>15)</sup>が壊れる」というその場の雰囲気を重要視しており、このことが、コンドームの必要性を感じていながらも使用しないことに結びついていると考える。

### 5. 性に関する対処行動

性に関する悩みやトラブルへの対処方法について、「友人に相談」が男女ともに最も高かった。思春期は親子関係から友人関係へ重点が移行する時期であることから、最も身近で信頼している友人に相談していると考えられる。さらに、友人が同世代の悩みを共感・共有しあうピアカウンセラーとして機能していると思われる。しかし、友人から誤った知識やピアプレッシャーなどを受け、性行動の誘因ともなりえる。互いにピアカウンセラーになれるような性の価値観と正しい知識を身につけることが必要である。また、それ以外に「雑誌で調べる」「医学書で調べる」という自分で解決を試みる方法、「電話相談」「医療機関に受診」という専門職に相談する方法と多様な対処方法をとっていた。

コンドームの所持は、男女ともに経験者が高く、これは経験者の避妊方法の第1位がコンドームとなっていることを裏付けている。

また、経験者の女子は男子より所持率が低く、「男性より女性、経験有群より無群の方がコンドームを購入することおよび所持すること<sup>15)</sup>に恥ずかしさを感じている」という福本の調査結果が背景にあると考える。

初交時の状況は、男子は半数以上が自ら望んで性交に至っているが、女子は自ら望んではいない。「望んだわけではないが、自然の成り行きで」「望んでいなかったが、結局同意して」「望んでいなかったが、言えなかった」という理由で性交に至っており、自分の意思決定に基づいて性交に至っていない。さらに、「意に反して強要された」と答えた人もおり、性行動の場面において男性優位の姿が伺える。性交場面においては、お互いが同意しているとは言いがたく、お互いを尊重できる関係とはほど遠い。お互いに相手を尊重する姿勢、性の自己決定能力、そして性行動における交渉力の習得が望まれる。

性交をする理由については、男女ともに「相手のことが好きだから」が最も高く、「好き」すなわち愛という情緒的なものが根本的な動機となっている。また、男子は「気持ちがいい」「楽しい」「すっきりする」「セックスがしたい」と身体的快楽も動機である。それに対し女子は、「その場の雰囲気」が高く、状況に流されていることをあらわしている。これは、伊藤の女子はロマンスを追い求める傾向が強く、男子は体（性的欲求）と心（愛情）とは切り離せない一体のものであるということを示している。このような男女の心理の違いについて理解できるよう援助していくことが必要である。

避妊方法については、男女ともに「コンドーム」を最も多く使用していた。「コンドーム」は、避妊のほかに性感染症予防にも有効であり、性交時には必ず使用することが望まれる。しかし、コンドームは正しく使用しなければ避妊や性感染症に無効となるため、正しく使用できるよう、装着時期、装着方法など具体的な指導が必要である。ついで、「膈外射精」が多くみられた。この方法は、男性側の意志にゆだねられる方法であると同時に避妊の失敗率が極めて高くなる方法である。また、女子の1割は避妊をしておらず、妊娠

や性感染症に対し危機感を全く感じていない。若者の性感染症や人工妊娠中絶が問題となっている現状を考えると、更なる性教育の充実を痛感させられる。

## まとめ

新潟県内の高校生（男子446人、女子1265人）にライフスタイル、性意識および性に関する対処行動に関するアンケート調査を実施し、性交経験の有無別に検討した結果、以下のことが明らかになった。

1. 人的側面として、普段の遊び相手について「彼氏・彼女」と答えたのは、経験者のほうが高く、異性と接する時間や機会が多かった。さらに、経験者の半数は現在、交際相手が1人いた。
2. 物的側面として、「携帯電話・PHS」の所有は経験者のほうが高く、携帯電話・PHSと性交経験には関連がみられた。
3. 金銭的側面として、小遣いの金額は経験者のほうが高く、「飲食代」「洋服・靴代」が主な使いみちであった。
4. 女性がコンドームをつけてということに関する意識として、経験者は男女ともに「安心してできる」としながらも、女子は「しらける」「雰囲気が壊れる」という意識が高く、コンドームを使用する重要性よりも場や状況を大切にしていることが示された。
5. 悩みやトラブルへの対処行動として、「友人に相談」は経験者のほうが高かった。
6. 経験者504人の初交時の状況は、男子は「自ら望んだ」、女子は「望んだわけではないが自然の成り行きで」が最も高く、女子は自分の意思決定に基づいて性交に至っていないことが示された。

以上より、高校生の2～3割の性交経験者がいるという前提で、早い時期からお互いを尊重する姿勢、性の自己決定能力、性行動における交渉力を習得できるよう、性教育の更なる充実が求められる。

## おわりに

今回、若者のライフスタイルと性交の有無

別の関連をみた。ライフスタイルとして、人的側面、物的側面、金銭的側面の3側面としたが、その内容は十分とはいえない。今後、さまざまな側面から若者の現状を見極め、性教育の充実へとつなげていきたい。

謝辞：本調査にご協力いただいた諸先生および高校生の皆様に深く感謝申し上げます。

(本稿の要旨は、第22回思春期学会で発表した。)

#### 引用・参考文献

- 1) 大東千晃、西海ひとみ、水畑喜代子他．高校生の性行動、および性教育に対する態度、関心、悩み、についての検討(第1報) - 高校生活における関心事、悩み、性教育へのニーズ - . 思春期学 2004 ; 22 ( 3 ) : 375 - 383 .
- 2) 劔陽子．若者の望む性に関する情報についての質問紙調査．思春期学．2004．22 ( 3 ) : 423 429 .
- 3) 「すこやか親子21」公式ホームページ．  
< <http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/abstract.html> >  
(2004.10.27 アクセス)
- 4) 北村邦夫．特集 性教育指導者のスキルアップをめざして まとめ - 第26回日本産婦人科会性教育指導セミナー(総合討論)．産婦人科の世界．2004 ; 56 : 71 74 .
- 5) 平岡友良．高校生の性および性教育に関する意識調査．思春期学．2003 ; 21 ( 2 ) : 192 199 .
- 6) 財団法人 日本性教育協会編．「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告．東京 : (株)小学館 ; 2001 . 28 34 .
- 7) 内野英幸．思春期の若者のセクシャル・ヘルスに関する高校生と教師の比較実態調査．思春期の性のガイドブック．2003 ; 87 105 .
- 8) 財団法人 日本性教育協会編．「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告．東京 : (株)小学館 ; 2001 . 28 34 .
- 9) 下田博次．あなどれない子どもの携帯電話利用問題．子ども白書2004．東京 : (株)草土文化 ; 2004 . 200 202 .
- 10) 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所編．日本子ども資料年鑑2003．名古屋 ; KCT中央出版．2003 . 310 .
- 11) 内野英幸．思春期の若者のセクシャル・ヘルスに関する高校生と教師の比較実態調査．思春期の性のガイドブック．2003 ; 87 105 .
- 12) 財団法人 日本性教育協会編．「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告．東京 : (株)小学館 ; 2001 . 28 34 .
- 13) 力武由美．思春期のセクシャリティとジェンダーの問題．Quality Nursing . 2002 ; 11 ( 8 ) : 905 914 .
- 14) 赤枝恒雄．子どものセックスが危ない．東京 : WAVE出版 ; 2002 . 24 44 .
- 15) 福本環．男女大学生の避妊に対する態度 性差、性交経験の有無の差からの検討 - . 思春期学．2004 ; 22 ( 2 ) : 227 234 .
- 16) 伊藤裕子．第11章 自分は誰を愛しているのか．ベーシック現代心理学 青年の心理学[改訂版]．東京．有斐閣 ; 2002 . 171 187 .
- 17) 大東千晃、西海ひとみ、水畑喜代子他．高校生の性行動、および性教育に対する態度、関心、悩み、についての検討(第2報) - 性行動の実態、および避妊に対する知識、態度 - . 思春期学．2004 ; 22 ( 3 ) : 384 - 391 .
- 18) 渋谷昌三．IT社会に望まれるコミュニケーション・スキル．思春期学．2002 ; 20 ( 4 ) : 431 434 .
- 19) 藤井奈緒、佐藤久子、才門尚美他．高校生のクラミジア感染症に関する認識 性行動、避妊の実態の分析を中心に . 母性衛生．2003 ; 44 ( 1 ) : 30 - 38 .
- 20) 斎藤益子、木村好秀．高校生の性意識と性行動に関する実態調査 都内某公立高校における調査成績 . 思春期学．1999 ; 17 ( 2 ) : 263 - 271 .